「話のたねのテーブル」より

気になる“植物の絶滅危惧種”(3)

廣田伸七

クマガイソウとアツモリソウは，独特の花の形や色から愛好されている山野草であり，名前の由来が面白い。

その昔，源氏と平家の一ノ谷の合戦で源氏の熊谷直実（くまがいなおざね）が，平家の平敦盛（たいらのあつもり）を討った話は平家物語で有名で，謡曲や浄瑠璃などにも語られている。

山野草のクマガイソウの和名は，花の袋状の唇弁を熊谷直実が背負った母衣（ほろ）にたとえたものだといわれている。これに対し，アツモリソウのほうは，同じく袋状の唇弁を平敦盛が背負った母衣に見立て，クマガイソウに対比させてアツモリソウと名付けたといわれている。

クマガイソウ

クマガイソウはラン科アツモリソウ属の多年草で，北海道の西南部から九州に分布する日本の特産種で，落葉樹林内や照葉樹林内，杉林や竹林などに生育する。茎は直立し高さ20～40cm，下部にさや状の葉があり，上部に柄のない大きな葉を2枚接近して互生するので，一見対生しているように見える。葉は扇を開いたように広がる。4～5月頃に高さ15cmくらいの花柄を1本直立させ，先に径8cmほどの大きな花を横向きに1個つける。唇弁は大きな袋状で，上述したように和名の由来となった。

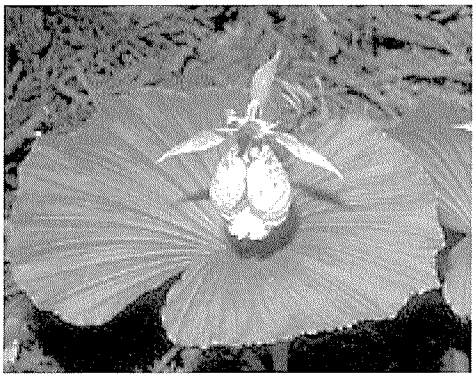
アツモリソウ

アツモリソウもラン科アツモリソウ属の多年草。北海道から本州に分布し，山地の日の当たる草原などに生育する。茎は直立し，高さ30～50cm。葉は広楕円形で互生して5～6枚つき，基部は茎を抱く。5～6月に，茎の先に直径5cm内外の紅紫色～淡紅色の花を1個横向きに開く。唇弁は扇球形の袋状で，上部に漏斗状の開口部がある。

かつては，クマガイソウは里山や平地の杉林，竹林などによく見かけられたが，里山は宅地などに開発され，竹林も次第に姿を消し，それにつれてクマガイソウも見られなくなり，最近では絶滅危惧種としてレッドデータブックに記載されるようになった。アツモリソウは山野に生育するので，絶滅危惧種までには至っていないが，これも姿かたちが美しいので，乱獲の恐れがある。乱獲は慎みたい。

クマガイソウもアツモリソウも，平家物語とともにのちの世まで残したいものである。

（話のたねのテーブル No.231 より）



▲クマガイソウ

▲アツモリソウ